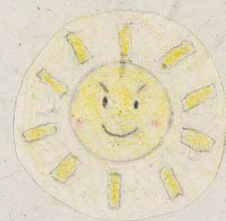


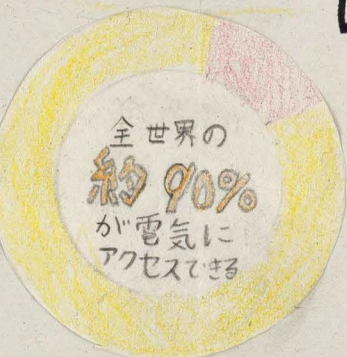
日本のエネルギー新聞

発行年 5年 1組 2番
新井菜央

まず私が日本の『エネルギー』について調べようと思った理由は、日本はあまり電気が使えないところがないので目標7の問題や課題はどんなところがあるのか、と思いついた。日本のエネルギーを調べることにしました。



今世界で電気が使えない人は、約6億7500万人もいます。世界の目標は、大きく3つあります。一つ目は、2030年までに



だれもが安い値段で、安定的で現代的なエネルギーを使えるようにする。二つ目は、2030年までにエネルギーをつくる方法のうち再生可能エネルギーを使う方法の割合を大きく増やす。三つ目は、2050年までに今までの倍の速さでエネルギー効率を良くしていくという目標があります。

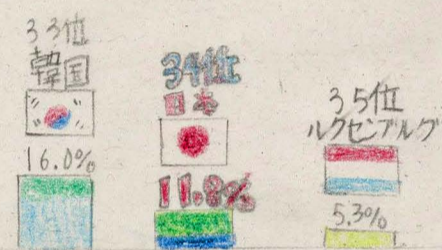
再生可能エネルギー



次は、『再生可能エネルギー』という言葉をよく聞いたことがあったので、『再生可能エネルギー』の例を調べてみました。

日本のエネルギー自給率

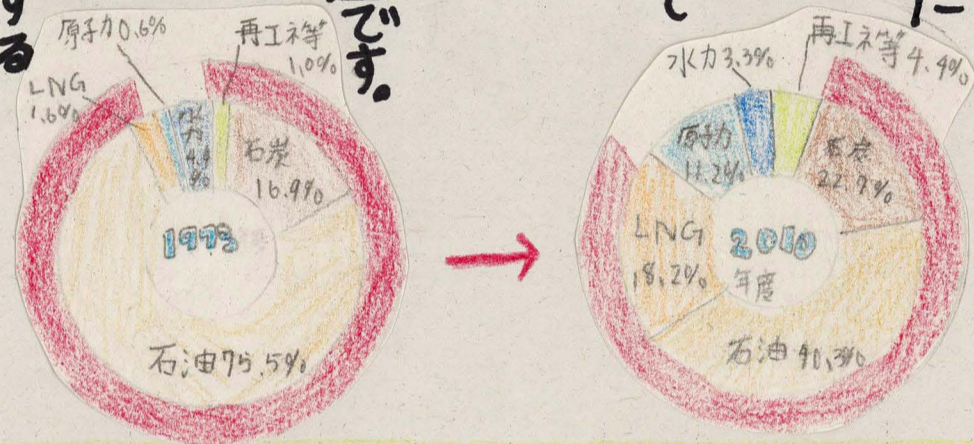
経済産業省が資源エネルギー庁によると、日本のエネルギー自給率は、11.8%です。世界34位です。もちろん国の資源量などにも違いがあるので、多ければ良いというわけではありません。自国で作るエネルギー量は、先進国の中でも低いと言えるでしょう。



日本の取り組み

現在日本で作られているエネルギーの85%が海外に依存した化石燃料です。これが意味することは、

・資源が枯渇した場合エネルギー不足に陥る
・国際情勢によってエネルギー源の確保が不安定になる。



というところが問題です。特に先進国である日本は、2050年までに温室効果ガスを80%削減することを掲げており、エネルギー転換による脱炭素への取り組みを進めています。

日本の再生エネルギーの導入に関する課題

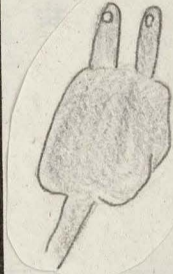
普及が進む再生可能エネルギーですが、課題も多く残されています。例えば、送電や変電、配電などの電力系統の設備に制約があることが問題です。電力供給は地域エネルギーで行われており、余ったからと簡単に他の地域に渡すことができないのです。太陽光発電なので電力を急に作っても電力が余ってしまうという事です。また、古くなった太陽パネルの適切な処理も問題となっています。せっかく未来のエネルギー開発をしているのに、不法投棄などされていたら元も子もないですよ。さらに、再生可能エネルギー事業者が登録してからいつまでもエネルギーを作らず、登録時の買取価格を保持しようとする動きも指摘されています。



います。技術開発が進み価格に比べても、高い金額で買取をしていたら定着しない可能性もあります。再生可能エネルギーの導入を進めるためにも、これらの問題が急がれます。

私達ができる事

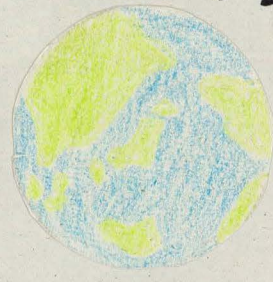
日本や他の国のエネルギー状況に興味を持ち、未来のエネルギーについて考えて見る。コンセントを抜いたり、電化製品の電源をこまめに切る。



公共交通機関をできるだけ使うことやアイドリングストップを心掛ける。これらが私達ができる事です。



これまでのことを簡単にまとめると、まず日本のエネルギー自給率は、11.8%で世界34位で先進国の中でも低いと言えました。そして「日本の取り組み」では、日本は、2050年までに温室効果ガスを80%削減することを掲げており、エネルギー転換による脱炭素化への取り組みを進めていると言っていました。



最後は、「日本の再生エネルギーの導入に関する課題」です。問題は、送電や変電、配電などの電力系統の設備に制約があることなどがありました。

編集後記

日本のエネルギーを調べて思った事は、日本にもいろいろな課題や取り組みが必要ならぬ事があるのだと思います。その課題を達成するには、一人一人が取り組みなければいけないと思いました。そして世界には、たくさん電気を使えない人がいることを知りました。私はこれから電気をこまめに消したり、自らが出来る事から少しずつ取り組みたいと思います。